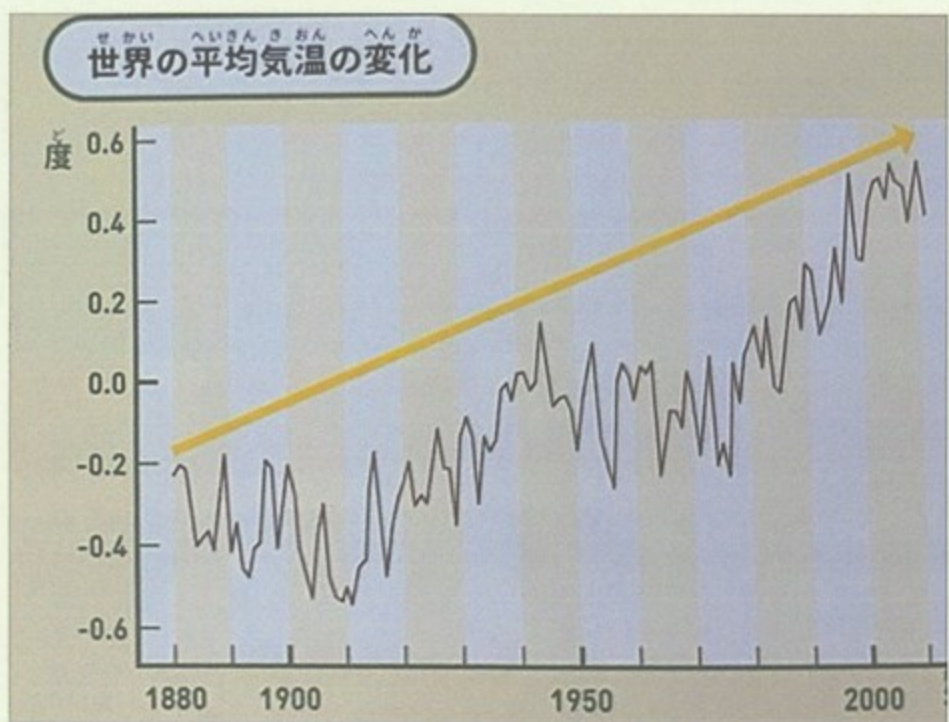
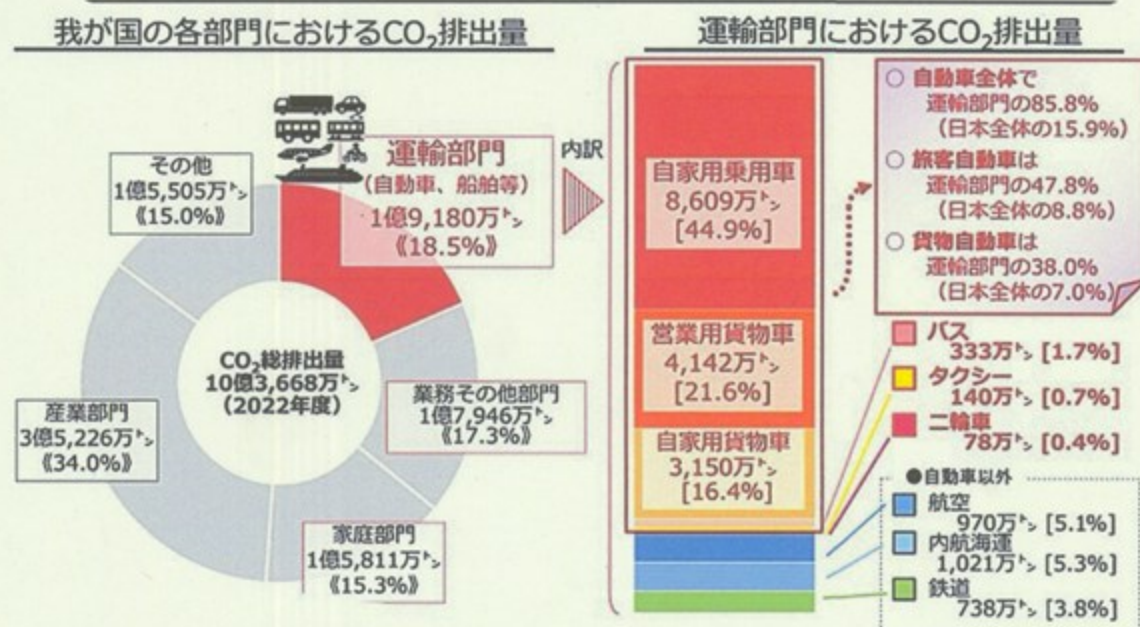




地球温暖化を防ぐために



資料①は1880年から2012年までの世界の平均気温を示しています。増えたり減ったりしていますが、この2つを比べると、0.85度増えている事がわかります。このままいくと地球に住むことが難しくなります。

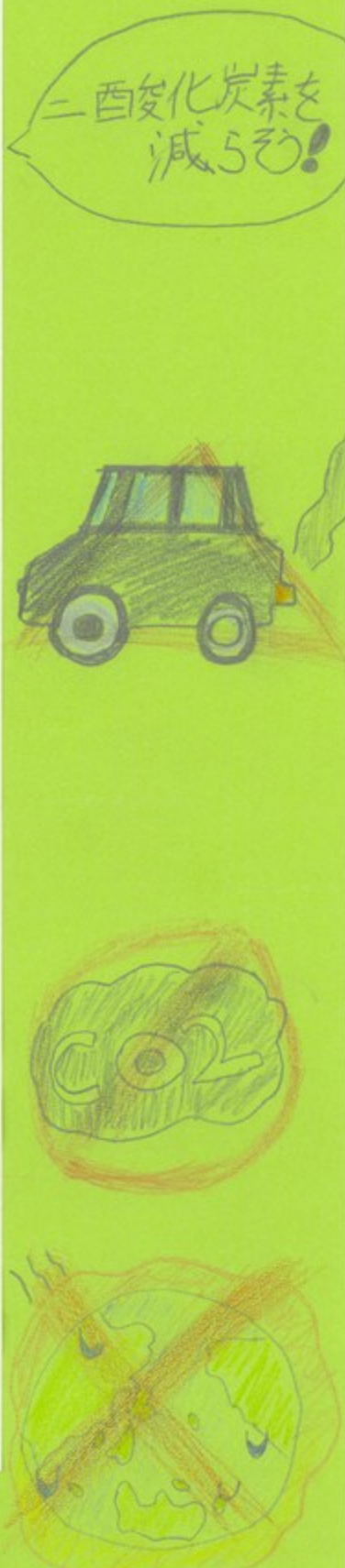


資料②は日本の各部門におけるCO₂排出量を示しています。1990年から2022年度における二酸化炭素の排出量の割合の18.5%を占める運輸部門の85%以上が自動車によるものです。それに対して、二輪車はわずか0.4%程度しか占めていないことがわかります。

以上のことから地球に住み続けるためには、自家用乗用車を使うのを控えて、二酸化炭素を減らし、地球温暖化を防ぐことが重要だと考えます。地球温暖化の具体的対策には、二酸化炭素の排出量を減らすために自家用乗用車よりも鉄道や二輪車などを使い始めたら良いのではないのでしょうか。

〈出典〉 IPCC参考

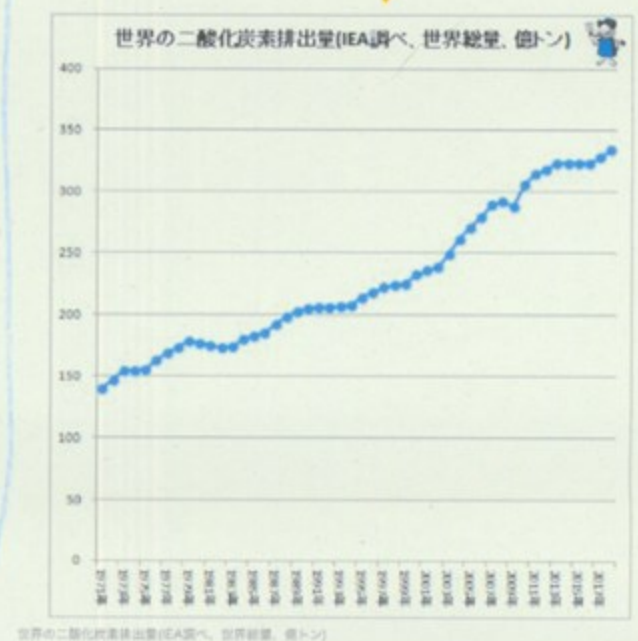
温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ(1990~2022年度)確報値より国土交通省環境政策課作成。



気候変動を食い止めよう!

地球上の二酸化炭素排出量を減らすことは、気候変動を食い止める方法の一つです。私たちは、世界の二酸化炭素排出量を大きく減らすために、節電することが大切です。

資料①を見てください。このグラフは、二酸化炭素排出量をあらわしています。この資料から分かることは、1971年から2017年までで、二酸化炭素排出量が、約200億トン増えていることがわかります。



それとあわせて、この資料②からは1900年から2019年までに四度近く上昇していることがわかります。資料①と②を見て、二酸化炭素排出量が増えると、気温が上がってしまい、どんどん暑くなっていることが考えられます。

資料③を見てください。これは、家庭のエネルギー消費量の割合が示してあります。この資料からは、家庭では、照明などが一番使われていることと、冷房はあまり使われていないということがわかります。そして、このようなことから考えられることは、照明などの電気を節約すれば全体的にエネルギー消費量を減らすことができるのではないかと考えられます。それ以外にも、脱酸素社会に向けて進めている企業の商品を買って応援したりすることもできます。

以上のことから、気候変動を食い止めるためには、照明などの電気を節電して、二酸化炭素排出量を大きく減らすことが大切だと考えます。

